

<クエルダ セカ技法 Técnica de cuerda seca>

釉薬の色同士が混じり合わないよう、水をはじく絵具あるいは炭を含んだ鉛筆で模様を描き、その内部を水で溶いた釉薬で彩色する技法です。この技法が生まれる前はモザイクタイル技法が長い間使われてきました。しかし、膨大な時間がかかるためクエルダ セカ技法とクエンカ技法が生まれました。クエルダは「紐」、セカは「乾く」というスペイン語。黒い顔料と油等を混ぜた塗料で輪郭を描き、焼成後に残るその黒い輪郭が『乾いた紐』のように見え、この技法名が付けました。タイルアート京香では主に鉛筆を使い輪郭を描きます。その線は窯内部の高熱で飛んで無くなり、タイル素地が線になって現れ、モザイクタイルのように見えるのが特徴です。

<クエンカ技法 Técnica de cuenca>

タイルアート京香では石膏型から制作しております。石膏型が柔らかいうちに模様を彫り、その後乾燥させます。粘土を詰めて型抜きをすると輪郭が凸形に浮き彫りになります。粘土を十分に乾燥させた後に素焼きをし、スポイトや筆を使用して凹の部分に釉薬を流し込みます。型は何度でも使用でき、同じ柄のタイルが複数作れるのが特徴です。聞き馴染みのあるレリーフタイルがこの技法で制作したものです。

<水彩技法 Técnica de sobre baño>

素焼きタイルに白あるいは薄い色の釉薬をかけ、その上から水で溶いた顔料で絵付けをして焼成します。幅広い色の濃淡の表現が可能であり、細かい柄を描くことができます。

<チューブライニング Técnica de línea de relieve>

素焼きタイルにエンゴーベ（油で溶いた化粧土）を使い細い線のように抽出しながら模様を描きます。クッキーにアイシングで模様や文字を描く作業に似ています。描いた柄が凸形に盛り上がり、乾燥すると固まります。スポイトや筆を使用して凹の部分に釉薬や顔料を使い彩色します。細かい柄を描くことには不向きです。